

令和5年度
学校関係者評価委員会
報告書

学校法人 愛媛学園
愛媛調理製菓専門学校

令和5年度 学校法人愛媛学園 愛媛調理製菓専門学校
学校関係者評価委員会
議 事 録

1. 日 時 令和6年6月6日（木） 14時00分～15時00分

2. 場 所 愛媛調理製菓専門学校 6階 第4講義室

3. 出席者 <企業等の役員または職員>

委 員 岡崎 城司 氏 (愛媛県調理師会前会長)

委 員 喜舎場 盛孝 氏 (中国料理胡桃 主人)

<卒業生>

委 員 丸山 彰 氏 (さかな工房 丸万 主人、本校卒業生)

<委員会事務局>

事務局 渡邊 秀一 (愛媛調理製菓専門学校 校長)

事務局 杉野 由美子 (愛媛調理製菓専門学校 教頭)

事務局 佐々木 茂 (愛媛調理製菓専門学校 実習管理部長)

事務局 宮城 朋子 (愛媛調理製菓専門学校 実習管理課長)

4. 議 事 I. 令和5年度自己評価結果について

(1) 教育理念・目標 (2) 学校運営 (3) 教育活動 (4) 学修成果

(5) 学生支援 (6) 教育環境 (7) 学生の受入募集 (8) 財務

(9) 法令等の遵守 (10) 社会貢献・地域貢献 (11) 国際交流

II. 自己評価結果の学校関係者による評価について

(1) 教育理念・目標 (2) 学校運営 (3) 教育活動 (4) 学修成果

(5) 学生支援 (6) 教育環境 (7) 学生の受入募集 (8) 財務

(9) 法令等の遵守 (10) 社会貢献・地域貢献 (11) 国際交流

評価委員からの評価および意見

項 目	評 価 ・ 意 見
(1) 教育理念・目標	養成施設としての歴史が長く、教育理念・目標も明確である。伝統校の良さに加えて、新しい時代へ対応できる学校であってほしい。
(2) 学校運営	学校をとりまく環境はきびしいが、教育の質を担保しながら、選択と集中を行い、より効率的な学校運営を目指してほしい。
(3) 教育活動	教員の学生、保護者対応については、世間でもその難しさが取りざたされているが、研修等による教職員の能力開発が重要と思われる。
(4) 学修成果	<p>① 休退学者が減少したことは評価できる。</p> <p>② 求人が増えたことは喜ばしい。学生の進路決定に正しい判断ができるような情報提供と指導・支援をしてほしい。</p> <p>③ 学生の多様化は授業や実習の質を保障していく上で難しさもあるのではないかと、少人数の授業編成など工夫が必要。</p>
(5) 学生支援	<p>① 修学支援新制度は是非、継続して適用されるようにしてほしい。</p> <p>② 社会人のリスキリングの制度の理解を深めて活用してほしい。</p>
(6) 教育環境	実習が主な学校ではあるが、将来的には教科書のデジタル化や動画視聴による学習など教育環境のDX化は進むと予想される。
(7) 学生の受入募集	<p>① 学生のコンテスト等の活躍はメディアでも大きく取り上げられたが、そのような強みをもっと活かす方法が必要。</p> <p>② 県内に競合校もできて、少子化の中で学生数を確保することは容易ではないと想像できるが、積極的な募集活動を期待する。</p>
(8) 財務	<p>① 物価高騰の影響は大きく、支出項目の見直しは必要。</p> <p>② 財務基盤の安定化のため、資産の有効活用や処分整理等を検討する必要あり。</p>
(9) 法令等の遵守	コンプライアンスについてはスタッフ全員が共通認識を持って行動できるかが、鍵となる。意識改善と情報共有が肝要。
(10) 社会貢献・地域貢献	ポストコロナの活動として、地域や社会の人とのつながりを持つ工夫をして交流活動を活性化してほしい。
(11) 国際交流	コロナ禍で停滞していた留学生の流れは増加しており、産業界も外国人労働者の受け入れに前向きである。留学生の受入体制は必要。